

Ⅲ 貯蓄・負債

1 概況

二人以上の世帯の平成26年11月末日現在の貯蓄現在高は1世帯当たり1856万円で全国第3位となり、平成21年と比較すると7.2%の増加となっている（表14）。

表14 貯蓄現在高及び年間収入（二人以上の世帯）

（）内は都道府県別の順位

		貯蓄現在高 (千円)	年間収入 (千円)	増減率(%)		貯蓄年収比 [※] (%)
				貯蓄現在高	年間収入	
福井県	平成21年	17,315 (10)	7,399 (2)	-9.4	-11.2	234.0
	平成26年	18,562 (3)	7,113 (2)	7.2	-3.9	261.0
全国	平成21年	15,208	6,563	-2.2	-6.3	231.7
	平成26年	15,646	6,391	2.9	-2.6	244.8

注1 各年11月末日現在

注2 貯蓄を保有していない世帯を含む平均

※ 貯蓄年収比＝年間収入に対する貯蓄現在高の比率

二人以上の世帯の平成26年11月末日現在の負債現在高は1世帯当たり459万円で、平成21年と比較すると4.9%の増加となっている。負債現在高のうち「住宅・土地のための負債」は370万円となっており、負債現在高の80.6%を占めている。

「住宅・土地のための負債保有率」（「住宅・土地のための負債」を保有している世帯の割合）は27.0%となっており、平成21年と比較すると1.0ポイント低下している（表15）。

表15 負債現在高及び負債保有率（二人以上の世帯）

（）内は都道府県別の順位

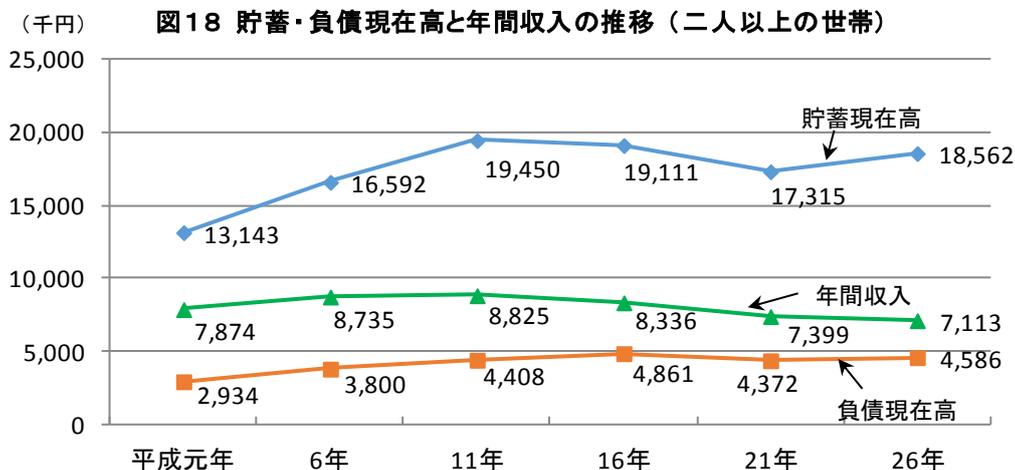
		負債現在高 (千円)		うち 住宅・土地 のための負 債(千円)		負債現在高に 占める住宅・ 土地のための 負債割合 (%)	負債 保有率 (%) ※	うち 住宅・土地の ための負債保 有率(%)
		増減率 (%)	増減率 (%)					
福井県	平成21年	4,372 (32)	-10.1	3,726	-9.4	85.2	44.5	28.0
	平成26年	4,586 (22)	4.9	3,698	-0.8	80.6	38.2	27.0
全国	平成21年	5,433	-7.0	4,634	-8.1	85.3	44.9	30.2
	平成26年	5,333	-1.8	4,585	-1.1	86.0	41.8	28.4

注1 各年11月末日現在

注2 負債を保有していない世帯を含む平均

※ 負債保有率＝負債保有世帯数（抽出率調整済）÷集計世帯数（抽出率調整済）×100

福井県の貯蓄現在高と負債現在高の推移をみると、ともに平成 21 年には減少したものの平成 26 年には増加となっている。一方、年間収入は平成 16 年以降減少が続いている（図 18）。

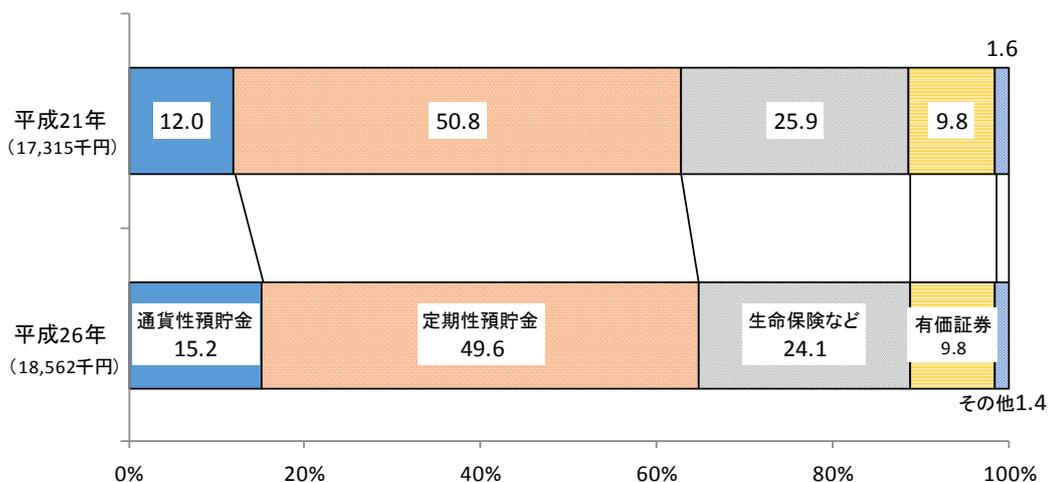


2 貯蓄の種類

二人以上の世帯の貯蓄現在高の構成比を貯蓄の種類別にみると、「定期性預貯金」が 49.6%と最も高く、次いで「生命保険など」が 24.1%などとなっている。

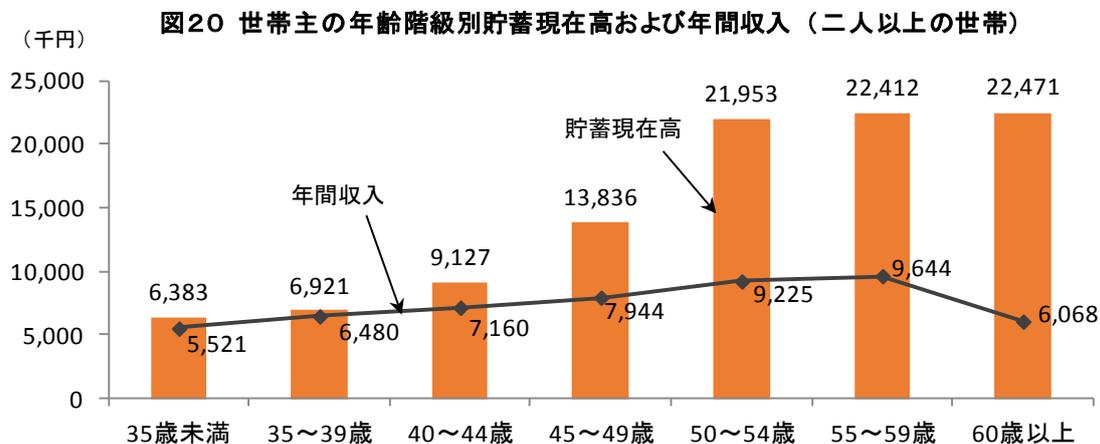
平成 21 年と比較すると、「通貨性預貯金」の割合が上昇し、「定期性預貯金」、「生命保険など」および社内預金などの「その他」の割合が低下している（図 19）。

図19 貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）



3 年齢階級

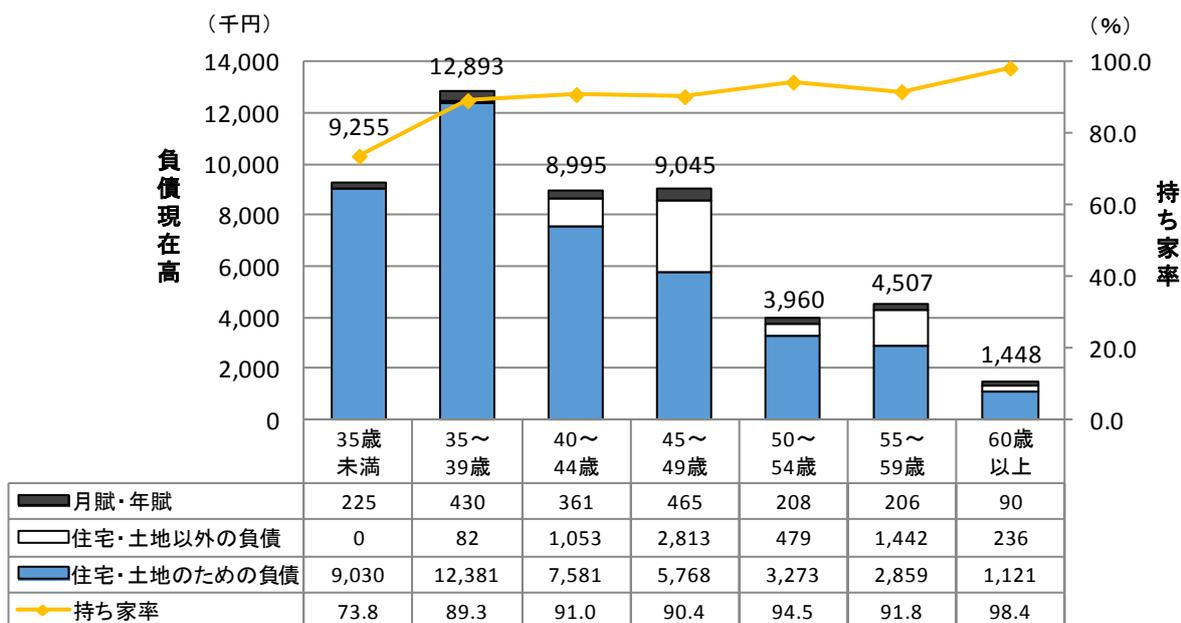
二人以上の世帯の1世帯当たりの貯蓄現在高を世帯主の年齢階級別にみると、35歳未満が638万円が最も少なく、60歳以上が2247万円で最も多くなっており、年齢階級が高くなるに従って多くなっている（図20）。



注 貯蓄を保有していない世帯を含む平均

二人以上の世帯の1世帯当たり負債現在高を世帯主の年齢階級別にみると、35~39歳が1289万円と最も多くなっている。また、負債現在高のうち「住宅・土地のための負債」も35~39歳が最も多く、それ以降は年齢階級が高くなるに従って少なくなっている（図21）。

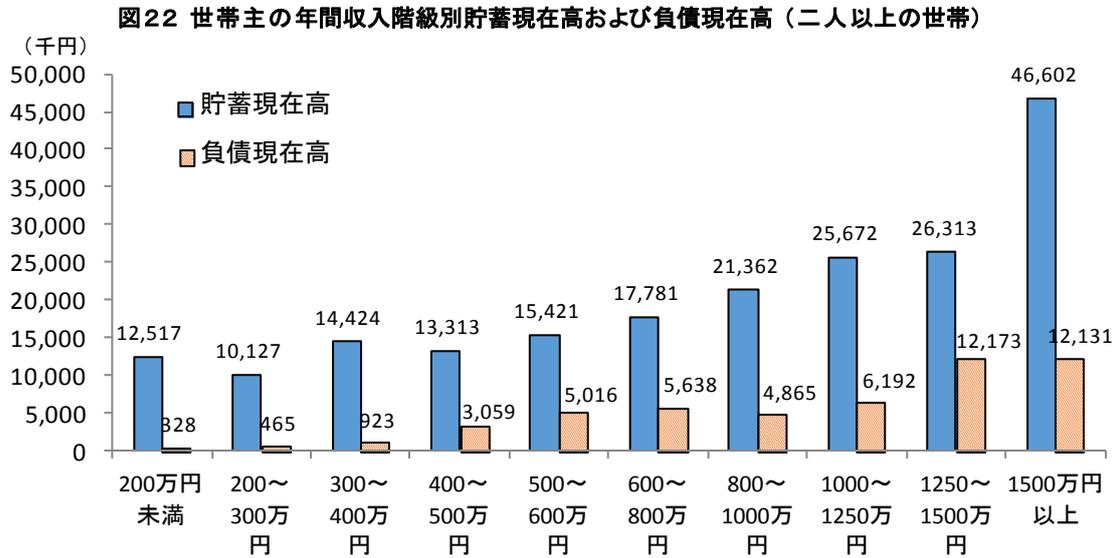
図21 世帯主の年齢階級別負債現在高および持ち家率（二人以上の世帯）



注 負債を保有していない世帯を含む平均

4 年間収入階級

二人以上の世帯の1世帯当たりの貯蓄現在高および負債現在高を世帯主の年間収入階級別にみると、貯蓄現在高は年間収入1500万円以上で最も多く、負債現在高は1250～1500万円の階級で最も多くなっている（図22）。



5 世帯分布

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別（標準級間隔150万円）の世帯分布をみると、最も世帯数の多い階級は4000万円以上で、二人以上の世帯に占める割合は13.8%となっている（図23）。

